

第31回 第2章 現代の経済

第4節 福祉社会と日本経済の課題

雇用と労働問題

講師
赤荻雅己

学習のねらい

労働者と使用者の間で起こるさまざまな問題を労働問題と言います。「労働」は身近なテーマであり、労働問題を学ぶこと、それは私たちの暮らしを守るうえでも大切なことです。産業革命のころ、働く条件や環境は劣悪でしたが、やがて労働運動が始まり、少しずつ改善され、労働者の権利も保障されるようになりました。こうしたことをまず学び、労働者を守る法律には何があるのか、さらに現代にはどのような労働問題があるのか、理解を深めていきましょう。

調べておこう
覚えておこう

労働三権／労働組合／労働運動／ワーキングプア／
国際労働機関（ILO）／労働基準法／
非正規雇用／労働災害／労働三法

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

労働問題って何？

労働者と使用者の間でおこる問題を労働問題と言います。それは賃金、残業手当、労働時間、そして解雇をめぐる問題など多岐にわたっています。労働問題の歴史は 18 世紀後半に始まる産業革命にさかのぼります。工場の労働者の待遇は劣悪で、低賃金・長時間労働に苦しんでいたのです。やがて労働者は自ら団結して ① _____ を結成し、労働条件の改善を目指して ② _____ をおこすようになりました。20 世紀に入ると、労働者の地位向上をはかる国際機関として ③ _____ も設立されました。日本でも明治の産業革命期に労働運動が始まりましたが、政府は治安警察法や治安維持法でこれを徹底的に取り締まりました。第二次世界大戦後、この流れが大きく変わります。日本国憲法が制定され、労働者の権利が保障されました。そして自由に労働運動ができるようになりました。今日では広く ① が組織され、労働条件の改善に取り組んでいます。

POINT 2

憲法が保障する労働者の権利

日本国憲法が制定され、そのなかで労働者の ④ _____ 定められています。まず団結権です。これは労働者が使用者と交渉するとき、1 人では弱いため、団結することを権利として保障しています。そして使用者と交渉する権利が団体交渉権、交渉が決裂したときにストライキを行う権利が団体行動権（争議権）です。さらにこうした権利を保障し労働者の生活を守るための労働法も制定されました。そのひとつが ⑤ _____ です。憲法 25 条の「健康で

文化的な最低限度の生活」を受け、労働条件の最低基準として、8時間労働、毎週最低1日の休日、時間外の割増賃金、男女同一賃金などを定めています。この⑤と労働組合法、労働関係調整法の三つを合わせて⑥.....と言います。

POINT 3

雇用の変化のなかで起こっていること

パートタイム、アルバイト、派遣などの働き方を⑦.....と言います。バブル経済崩壊後、内外の圧力にさらされた企業は経費を削減するため非正規雇用者を多用するようになりました。今日では全労働者の4割近くを占めるようになっています。非正規雇用者は所得が低く、正規雇用者と同じように働いても食べていくのがやっとという、いわゆる⑧.....の問題が指摘されています。また立場が弱く雇用が不安定なことも指摘されています。不況などで経済が悪化したとき、真っ先に整理されやすいのです。新型コロナウイルスの感染拡大による経済の悪化でも、非正規雇用者が解雇、雇い止め、休業など大きな影響を受けました。なかでも女性は男性よりも⑦で働く割合が高く、その影響をより強く受けやすいことが指摘されています。過労死などの⑨.....、労働法を遵守しない「ブラック企業」の問題とともに、今や労働人口の4割に迫る、非正規雇用者の雇用と労働環境をどのように整えていくのか、大きな課題となっています。

.....

- ①労働組合
 - ②労働運動
 - ③国際労働機関 (ILO)
 - ④労働三権
 - ⑤労働基準法
 - ⑥労働三法
 - ⑦非正規雇用
 - ⑧ワーキングプア
 - ⑨労働災害
- 答え